

press release

カカメ

dots performing arts

新作パフォーマンス公演
premiere performance

<http://dots.jp>

kakame

構成・演出・舞台美術 | 桑折 現 出演 | 垣尾 優、黒田政秀、佐伯有香 [Monochrome Circus]、高木貴久恵、高田麻里子
滋賀公演 | 2010年9月10日[金] 19:30- / 11日[土] 19:30- / 12日[日] 15:00- | 栗東芸術文化会館さくら 中ホール
神奈川公演 | 2010年10月22日[金] 19:30- / 23日[土] 19:30- / 24日[日] 15:00- | 川崎市アートセンター アルテリオ小劇場

| この件に関するお問合せ | 担当=本郷麻衣 〒602-8448 京都市上京区元北小路町156 グランパレ602 Tel: 080-4016-3851 E-mail: dots@dots.jp



カカメ

dots performing arts

新作パフォーマンス公演
premiere performance

<http://dots.jp>

kakame

身体、映像、空間を自在に結びつける独自の視点でパフォーミング・アーツへのアプローチを行ってきたdots。
最新作『カカメ』は、「鏡」をモチーフに、そこに照らし出される人間の様々な姿を劇場空間に映し出します。
合わせ鏡のように、自己と他者の関係性の中で複雑に揺れ動く私たちの存在。
その機微をすくい取りながら、舞台は現実とイメージの世界が交錯していきます。
そこに私たちの現在はどうのように映るのか——。
前作の屋外公演『KISS』(2009／京都)とは対照的に本格的な劇場空間に正面から挑む本作。
これまでの作品で多様な展開をしてきたdotsならではの空間構成とイメージーションが新たな局面を迎えます。

劇場との共同製作。

今作品はdotsと栗東芸術文化会館さくら、川崎市アートセンターが共同で作品を製作します。
劇場の全面的なバックアップによって、それぞれの劇場が持つ空間の魅力が最大限生かされる創作過程が実現しました。

dotsが劇場で作品を作ること。

これまでdotsは、劇場／野外を問わず様々な場所で、作品を作り公演を行ってきました。今回満を持して、本格的なプロセニアムの劇場空間に挑みます。
演出の桑折は京都造形大学の卒業制作にて、歌舞伎スタイルの劇場である京都・春秋座にて公演を行いました。
その作品は、劇場空間を縦横無尽に活かした演出で好評を博し、学科長であった故太田省吾氏からも高い評価を受け学長賞を受賞しました。
それから6年。原点である「劇場」で、これまで獲得してきた経験と技術がさらに進化していきます。

圧倒的なビジュアルと、魅力的な身体が渾然一体となった、鮮烈な舞台体験。

高木貴久恵の『静物画-still life』(白井 剛, '10)への出演や、古館 健の『LIFE-fluid, invisible, inaudible』(坂本龍一／高谷史郎, '07-)、
舞台『明るい部屋』(高谷史郎, '08-)への参加等、メンバーそれぞれの活動も目覚ましいdots。
今作ではゲストにアンサンブルゾネ、コンタクト・ゴンゾを経て現在フリーで活動する垣尾 優、Monochrome Circusから佐伯有香と、関西を代表するダンサーを迎えます。
メディア・アートの領域で活躍するスタッフが生み出す圧倒的なイメージの世界、そして、5人のパフォーマーそれぞれが醸し出す独特の存在感と
強靱な身体性により描き出される今作『カカメ』は、パフォーミング・アーツの新しい可能性を具現化した新鮮な舞台体験として、劇場に立ち現れます。

カカメ=鏡。鏡に反射するもう一人の私たち。

「カカ」は蛇を意味する古語であり、「カカメ」=「蛇の目」が転じてカガミの語源となったとする説がある。
小説や映画、哲学等様々なジャンルで取り上げられてきた「鏡」という根源的なモチーフを使い、現代の私たちの姿をもう一度見つめ直します。
何が実像で何が鏡像なのか。私たちの目に映り込む様々な光景が現実と非現実の境界を超えていきます。
今や先端を追いかけるだけでなく、その扱い方が問われているテクノロジーと、寄る辺なく漠とした私たちの身体と意識。
「他者」=「自分を映し出す鏡」であると捉えることで、複雑に絡まり、揺れ動く現在の私たちの姿を、合わせ鏡のような多層的なイメージにより抽出していきます。

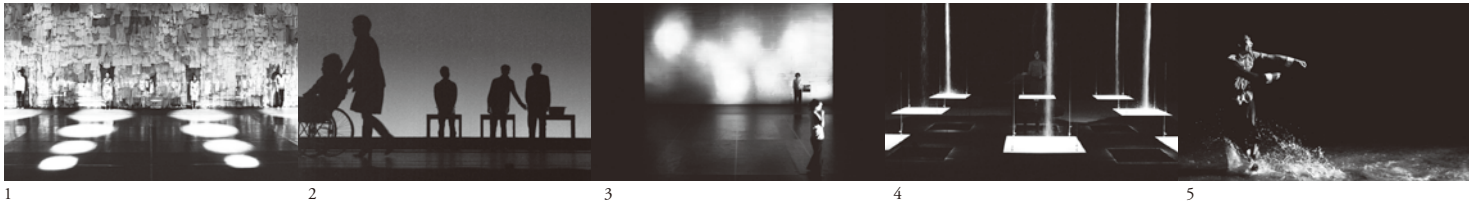
立ちこめる水蒸気。暗闇に一筋の光がみえる。それは水平に視界を横切ってから、こちらに向かっている。
とぎれとぎれに明滅する光の帯が、ゆっくりと焦点を私へとあわせてくる。一瞬の眩しい光に目がくらむ。
視界がひらけていくと、見知らぬ誰かともう一人の自分がそこに立っていた。
どこまでも追いかけてくる光。どんなに眩しくても目を閉じることができない。
許して、真っ白な光の中ではもう自分がどこだかわからない。

遠くを眺めている横顔がそこにあって、その横顔をじっと見ている。見ている遠さは決してわからないけれど、顔を見ているだけでその視線の先の遠さをなんとなく感知する。僕は人の顔を見つづける癖があって、相手に嫌がられても、気づくとまた見てしまっていたりする。それは特定の誰かの顔として認識しているのではなくて、そこにある興味を引きつけられるものとして知覚していると言った方がいい。目の大きさや色、鼻の形、唇の曲線、肌の色や質感などを、じっくりと自分の感覚に焼き付けるように見てしまう。そのうち、見ていた横顔が視線に気づいてこちらを見返し、視線がぶつかってドキリとする。お互いの意識がその一瞬で照準を合わせたように感じる。「目が合う」ということは、意識が自分と相手の関係性に集中している状態で、非常に繊細な感覚の機微までこちらの身体に伝わってくる。そうやって誰かと接触した経験が、あるときふっと思い出されたりして無意識的に自分の行動に影響を与えるなんてことは、誰にでもあることなんじゃないかと思う。

赤ちゃんは自己を認識する前に、母親に自分の姿を映しているという。赤ちゃんに限らず、いつでも他人という存在は意識と無意識、現実と超現実の世界の橋渡しをしてくれるようなものだと感じている。そして誰かと接触することで、自分が自分でなくなっていくような妄想をする。

今回の作品は「劇場」という非日常の世界を体験する場所で、日常とシュールリアルな世界が交錯しながら、その妄想に現実を絡ませて、発展させて、不確かなものの確かな感触を掴みとりたい。そうして、パフォーマーそれぞれの身体に、そして「劇場」に様々な人間の姿を、そこで確かに起こる出来事として映していきたいと考えている。

構成・演出・舞台美術 | 桑折現



1 | 『うつつなれ』(2003) 伊丹アイ・ホール / 青山スパイラル・ホール photo: Keiko OKAMOTO 2 | 『10の地点』(2004) 京都芸術劇場 春秋座 photo: Aki ISOKAWA
3 | 『KZ』(2005) 伊丹アイ・ホール photo: Toshihiro SHIMIZU 4 | 『vibes』(2008) 京都芸術センター photo: Yuya ITO
5 | 『KISS』(2009) 京都府立陶板名画の庭 屋外特設水上ステージ photo: Yoshikazu INOUE

会場 | 栗東芸術文化会館さくら 中ホール
日時 | 2010年9月10日[金] 19:30- / 11日[土] 19:30- / 12日[日] 15:00-

| 料金 | *日時指定・自由席・税込
一般 前売 3,000円 / 当日 3,500円
シニア&ユース 前売 2,000円 / 当日 2,500円

- ・開演の1時間前より受付・入場整理券を配布、開場は30分前より開始します。
- ・シニア=60歳以上、ユース=25歳以下が対象です。
- ・シニア&ユース席は証明書をご提示ください。
- ・未就学のお子様のご入場はご遠慮下さい。
- ・さくら友の会は各1割引きになります(前売のみ)。

| チケット取扱 | *2010年7月24日[土] 発売開始
栗東芸術文化会館さくら Tel: 077-551-1414 [10:00-17:00 (休館日は除く)]
チケットぴあ Tel: 0570-02-9999 [Pコード: 406-190]
ローソンチケット Tel: 0570-084-005 [Lコード: 53211]
e+ イープラス <http://eplus.jp>
平和堂くらしのサービスセンター (さくら開館日のみ取り扱い)
[AP栗東・AP瀬田・AP草津・AP近江八幡・栗東店]
京都芸術センター (窓口販売) Tel: 075-213-1000 [10:00-20:00]

| お問い合わせ |
dots Tel: 080-4016-3851 E-mail: dots@dots.jp <http://dots.jp>

至京都		JR栗東駅		至米原
		東口		
		SAKIRA		

栗東芸術文化会館さくら 中ホール
〒520-3031 滋賀県栗東市縄2-1-28 Tel: 077-551-1455
・JR琵琶湖線「栗東駅」東口より約400m(大阪から約60分、京都から約25分)
・名神高速道路「栗東I.C」より約3km(駐車場有り、公演時間内無料)

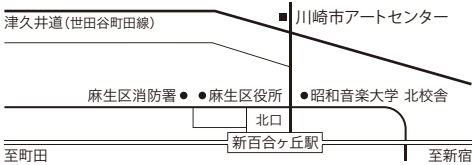
会場 | 川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
日時 | 2010年10月22日[金] 19:30- / 23日[土] 19:30- / 24日[日] 15:00-

| 料金 | *日時指定・自由席・税込
一般 前売 3,000円 / 当日 3,500円
シニア&ユース 前売 2,000円 / 当日 2,500円

- ・開演の1時間前より受付・入場整理券を配布、開場は30分前より開始します。
- ・シニア=60歳以上、ユース=25歳以下が対象です。
- ・シニア&ユース席は証明書をご提示ください。
- ・未就学のお子様のご入場はご遠慮下さい。

| チケット取扱 | *2010年8月21日[土] 発売開始
川崎市アートセンター Webサイト <http://kawasaki-ac.jp/>
川崎市アートセンター チケットカウンター [9:30-19:30 (休館日を除く)]
川崎市アートセンター チケット専用ダイヤル Tel: 044-959-2255 [9:30-19:30 (平日のみ)]
e+ イープラス <http://eplus.jp>
・車いす席をご希望の方は、川崎市アートセンター チケット専用ダイヤルまでご連絡ください。

| お問い合わせ |
dots Tel: 080-4016-3851 E-mail: dots@dots.jp <http://dots.jp>



川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
〒215-0004 川崎市麻生区万福寺6-7-1 Tel: 044-955-0107
・小田急線「新百合ヶ丘駅」北口徒歩3分(小田急線新宿駅より快速急行で23分)
・駐車場はございませんので、ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。

dots | <http://dots.jp>

京都を拠点に活動しているパフォーミング・アーツ・カンパニー。2001年、桑折 現を中心に結成され、身体、映像、テキスト、舞台美術、音、光などの舞台芸術に含まれる様々な要素を重層的に駆使し、独自の空間構成を構築するところから作品を制作している。AI・HALLとの共同製作をはじめ、劇場公演の他、岡山県・犬島の銅精錬所跡地での野外公演、ホテルの一室やビルの外壁を使った屋外パフォーマンスなども積極的に発表している。2009年、京都北山の“陶板名画の庭”に野外特設ステージを設置した『KISS』を上演。水とコンクリートが特徴である安藤忠雄建築の屋外美術館にて、巨大な滝を背景に個人と歴史の関係性をテーマした大規模な屋外パフォーマンスを行った。根源的な人間の「存在」を見つめようとするこれまでの作品は、完成度の高い視覚性、そして壮大なスケール感と共に、トータルなパフォーミング・アーツの可能性を切り拓きつつあると評価される。



出演 | 垣尾 優、黒田政秀、佐伯有香 [Monochrome Circus]、高木貴久恵、高田麻里子

Performed by | Masaru KAKIO, Masahide KURODA, Yuka SAEKI [Monochrome Circus], Kikue TAKAGI, Mariko TAKADA

| メンバー略歴 |

桑折 現 | Gen KORI | 構成・演出

dots主宰、演出家。1979年生。滋賀県出身。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科第一期卒業。卒業制作公演『10の地点』(’03・’04)で学長賞受賞。在学中にdotsを結成し、03年-06年度、AI・HALLとの共同製作事業(take a chance project)に選出される。dots以外での活動では、ASIA-EUROPE FOUNDATION主催『pointe to point』(’05)にて海外からのダンサー、振付家23名との作品制作や、国籍の異なる8人のパフォーミング・アーティストが集まり、3ヶ月かけてアジア4都市を巡回する滞在型プロジェクト『Chasing the whale』(’06)への参加がある。また、インスタレーション作品の発表や『舞台芸術08ーパフォーマンスの地政学ー』への執筆などがある。

高木 貴久恵 | Kikue TAKAGI | 振付

幼少よりヨガを、学生時代よりダンスを始め、クラシックバレエ、ジャズ・ダンス、コンテンポラリー・ダンスを学ぶ。2002年よりdotsの製作に参加。以後全ての作品に出演、振付。2008年にはイスラエル・パットジェバ舞踊団にて研修を行う。これまでにリズ・ラーマンや笠井叡、白井剛『静物画-still life』(’10)など国内外の様々な振付家の作品に出演している。

古舘 健 | Ken FURUDATE | テクニカルディレクション

アーティスト、プログラマー。1981年生。神奈川県出身。2002年、サウンド・アート・プロジェクト The SINE WAVE ORCHESTRAとして、第二回横浜トリエンナーレ(’05)をはじめ、国内外、様々な展覧会にて作品を発表。Prix Ars ElectronicaにてHonorary Mentionを受賞(’04)。2006年より活動の拠点を関西に移し、dotsでテクニカル・ディレクターとして活動するほか、様々なアーティストのクリエイションに参加している。主な作品として、インスタレーション『LIFE-fluid, invisible, inaudible』(坂本龍一／高谷史郎, ’07-)、舞台『明るい部屋』(ディレクション | 高谷史郎, ’08-)、舞台／インスタレーション『Time Lapse Plant』(ディレクション | 藤本隆行, ’09-)、舞台『This is how you will disappear』(ディレクション | Gisèle Vienne, ’10-)など。坂本龍一氏のツアー『Playing Piano 2009』では一部映像を担当。

<http://ekran.jp/anagma>

筆谷亮也 | Ryoya FUDETANI | 照明

建築を学びつつ、2002年よりインテリア・ディスプレイデザイン、インスタレーション作品の発表、イベントでのアートディレクションをgraf、アップルストア、CLUB QUATTROなど様々な空間で行う。2005年以降ライティングを軸に置くパフォーマンスプロジェクトlive lightingを主宰。2008年、パリのルーヴル美術館で行われたアートフェア『PARIS PHOTO』では、オープニングパフォーマンス『山口典子 ケイタイガールマーチングプロジェクト』にディレクターとして参加する。舞台『AAAA』(森川弘和、青柳拓次, '10)では照明を担当。

| パフォーマー略歴 |

垣尾 優 | Masaru KAKIO

1973年生。1995年より踊りはじめる。杲然リセット、山下残、アンサンブルゾネ、コンタクト・ゴンゾ、などの体験を重ね、更なる混沌を目指し最近はい興ダンスをおこなっている。

黒田政秀 | Masahide KURODA

エキゾチックな面立ちの飄々とした1982年生。dots、teuto、KIKIKIKIKIKI、HiGEなどに出演／舞台美術・装飾として活動。最近ではM☆3『バターナリズム♪』(’09)、teuto『ソグー』(’09)などに出演。dotsには『KISS』(’09)、『Unknown Theory, Still In Progress Vol.01』(’10)に出演している。

佐伯有香 | Yuka SAEKI

ダンサー、振付家。ダンスカンパニー Monochrome Circusに所属し国内外の公演に出演。同時に「双子の未亡人」としても活動。野外でお風呂を造る『OFURO』や、48人の人たちと共に踊る『ノリコボレル』を発表し話題を呼ぶ。また、バレエからコンタクトインプロビゼーションまで含めた独自のダンスメソッドをふまえ、若手ダンサー育成のワークショップをはじめ、俳優や一般の方へのダンスクラスで講師もつとめるなど、多彩な活動を展開している。

高田麻里子 | Mariko TAKADA

1985年生。福岡県出身。幼少よりバレエを、16歳よりコンテンポラリーダンスをはじめ。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科第5期卒業。卒業制作『Mamama』(’07)で瓜生山 賞を受賞。在学中より、Ohad Naharin、Doron Razなど、他多数の振付家の作品を踊る。dotsには『KISS』(’09)、『Unknown Theory, Still In Progress Vol.01』(’10)に出演している。

構成・演出・舞台美術 | 桑折 現

振付 | 高木貴久恵 テクニカルディレクション | 古舘 健 照明 | 筆谷亮也

音響 | 齋藤 学 映像 | 上峯 敬 衣装 | 鷲尾華子

装置 | 土井新二郎 舞台監督 | 外村雄一郎

広報デザイン | 外山 央 広報写真 | 東 直子

記録写真 | 井上嘉和 記録映像 | 桜木美幸 制作 | 本郷麻衣

協賛 | JHI/EIDO 協力 | 株式会社華新

後援 | 「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム(神奈川公演)

制作協力 | NPO法人アートネットワーク・ジャパン(神奈川公演)

主催 | dots、栗東芸術文化会館さくら(滋賀公演)、川崎市アートセンター(神奈川公演)

企画・製作 | dots

京都芸術センター制作支援事業

